

## 副知事及び県行政との懇談を行いました。

### 岡山県菊池副知事との懇談

10月29日(火)13時、県庁3階応接室

岡山県から、菊池副知事、くらし安全安心課倉森課長、今岡総括参事、藤原副参事に出席いただき、県生協連から、会長、副会長2名、組合員理事4名、事務局長の計8名が出席しました。

冒頭、副知事のご挨拶で、西日本豪雨災害に対する義援金や支援に対するお礼の言葉がありました。

生協から、全国ならびに岡山県の生協の現況や、現在、生協が大切に考えている活動として、SDGsに重なり合う生協の理念や活動について、地域社会づくりの取り組みで役割発揮をすすめていること、また、日本の生協の2030年ビジョンを作成していることや生協へ寄せられる期待などの報告をしました。

副知事から、SDGsは先進国では、少子高齢化や働き方改革など、別の切り口で取り組む必要を感じていることやSDGsの「誰一人取り残さない」という理念は、県行政の仕事や役割そのもののすべてを指していること、また、他の小売業とは違う理念を持ち、組合員主体の運営で組合員が利用する生協こそが、持続可能な小売業として確立されていく必要があることなどのお話がありました。その後、副知事が岡山県と韓国・慶尚南道の友好交流協定10周年行事で韓国を訪問したことにふれられ、日韓両国政府は関係悪化の状況だが、韓国の国民には反日感情はなかったことや韓国ではレジ袋が配布されないことなどの話があり、報道のあり方や韓国が「協同組合基本法」を運用していることなど交流を行いました。また、コープのエシカルとして進めているエシカル消費の具体的事例や医療生協が進めている「すこしお生活」などの紹介も行き、意見交換を行う中で生協への理解を深める懇談を行いました。



### 岡山県行政との定期懇談

10月29日(火)14時 県庁地下1階会議室

2019年度の岡山県への「要望書」は、災害対策、災害支援、買い物弱者への対応、食の安全とエシカル消費など8項目の要望を8月に提出しました。

その「要望書」に対する回答を受け取る県行政との定期懇談を行いました。岡山県から、くらし安全安心課3名を始め、要望項目の管轄部署8名の計11名、県生協連から9名が参加しました。

懇談では、回答に加えて、西日本豪雨災害で被災した自宅の約7割が建て替え希望となっていること、被災者の後期高齢者の医療費免除措置は、続けてあげたいが保険者が決めることであり、現在、延長は聞いていないこと、買い物弱者対応では、今までのハード面での支援から市町村と連携しながら支援する制度など、ソフト面での支援に取り組んでいることや買い物弱者への対応などの事業主体に規定はなく、行政の関わりはまずは市町村であるが、市町村の意向によっては県行政が関わることもあること、食品表示の周知は、経過措置期間の切れる来年に向けて準備すること、ごみゼロ社会プロジェクトの会議ではレジ袋有料化は俎上にのっていないこと、消費者行政予算では、少なくとも市町村の相談体制は維持していきたいことなど、質疑応答で意見交換を行いました。担当部署との直接のやり取りができ、深まった点がある一方、要望項目の分野で前進面を引き出したり、次につなげていくためには、さらに要望の出し方にも工夫が必要であることなど、課題も明確になりました。

